

Ⅲ まちづくりのプロセス

- 市民の願いは、すべての地域において同じサービスを同じ負担で受けられ、安心して安全に、活力にあふれ、生きがいと誇りと夢を持って、暮らしていくことです。
- 合併前には0.63あった財政力指数（市の歳出に占める税などの自主財源の割合を示すもの）が合併により0.44まで落ちましたが、これを合併前並に押し上げて、今後の都市間競争に打ち勝ち、持続が可能な、自立的な力強い中津川市をつくっていくためには、みんなで力を合わせて産業を活性化させていく必要があります。
- 産業は、市民の生活の糧となる所得の確保とまちづくりのための貴重な財源を生み出し、市民の暮らしを支える様々な分野のまちづくりを牽引する「機関車」の役割を持っています。
- この産業という機関車は、市民の暮らしを支える福祉や安全で便利な暮らしなどの「いきいきとしたふるさと中津川」という客車と、市民の生きがい、誇りをつくっていく「豊かな自然と独自の歴史・文化が光るふるさと中津川」という二両の「客車」を牽引していきます。
- この機関車をさらにパワーアップするために、主役たる市民、事業所に主体的に取り組んでいただき、市役所は支援役として行政が担うべき領域において、積極的な取り組みを行います。
- そして、新しい中津川市のまちづくりという列車のスピードを上げることにより、まちの住み心地や個性・魅力を高め、市民の満足度の向上と求心力アップへとつなげ、厳しい都市間競争に打ち勝っていきます。
- まちづくりの目標（将来都市像）を実現するためには、まちづくりを支える‘ちから’（基礎）として、「たくましく生きる人づくり」、「互いに助け合うコミュニティづくり」、「市民が主役の市役所づくり」の三本柱を強化する必要があります。

まちづくりを支える‘ちから’の三本柱

- ① まちづくりを推進するためには、市民自らがまちづくりについて主体的に考え、自分の役割を果たしていただく必要があります。このため、**たくましく生きる人づくり**をすすめ、なかでも次代を担う子どもたちの生きる力を育てることが大切です。【自助力】
- ② まちづくりの主役は市民であることから、自助力を高めるとともに、それぞれの機会に応じてボランティア活動に参加するなど、**互いに助け合うコミュニティづくり**をすすめ、地域でできることは地域で担っていただく必要があります。【互助力】
- ③ より少ない人員と予算で、より確実に、市民の声（ニーズ）に応えることができるように、**市民が主役の市役所づくり**をすすめなければなりません。このため、行政改革を積極的に推進し、職員数を2割削減して850人体制をめざしますが、市民サービスの低下を招かないために、職員能力の向上や民間の力の活用などにより、より一層の効率的な行政をすすめます。【公助力】

- 「いきいきとしたふるさと中津川」と「豊かな自然と独自の歴史・文化が光るふるさと中津川」づくりに向けてすすめる様々な施策を下支えする「**社会基盤の整備**」に努め、多様なまちづくりを円滑かつ効果的にすすめます。

このような視点に重点を置き、特に総合的にすすめないとお効果の出ないもの（少子化対策や過疎対策等）については、施策間の連携を強化して取り組み、まちづくりの目標（将来都市像）を実現するための具体的な施策を積極的に推進していきます。